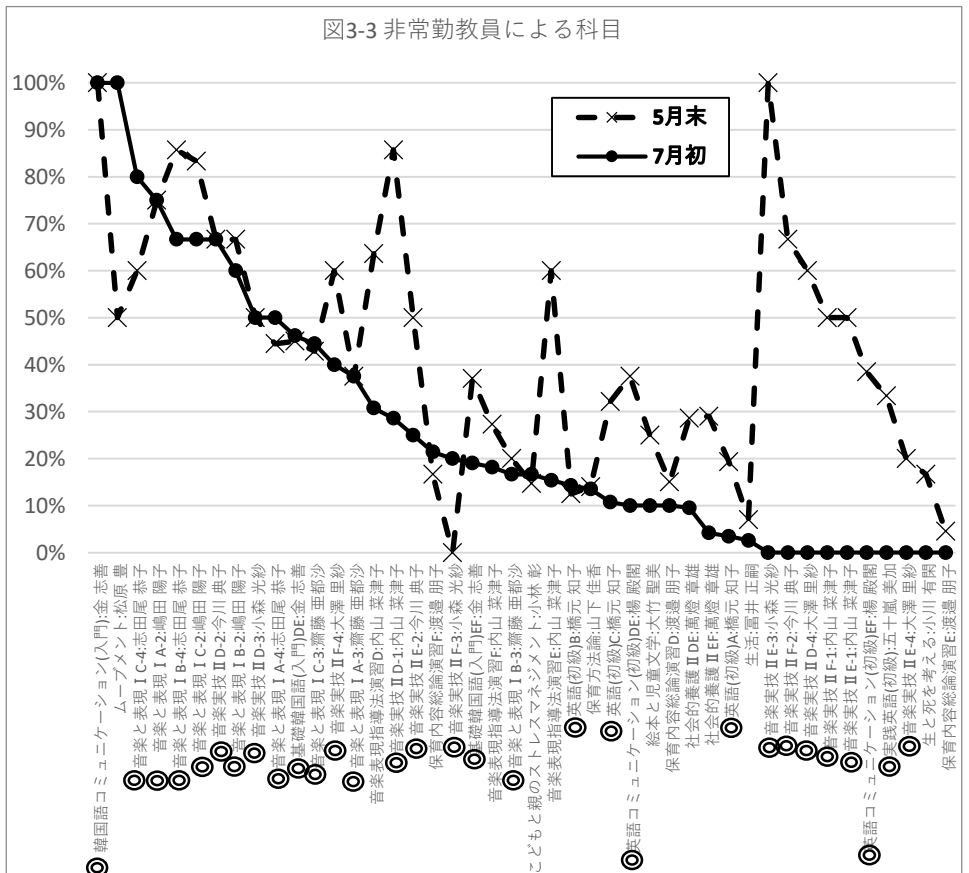
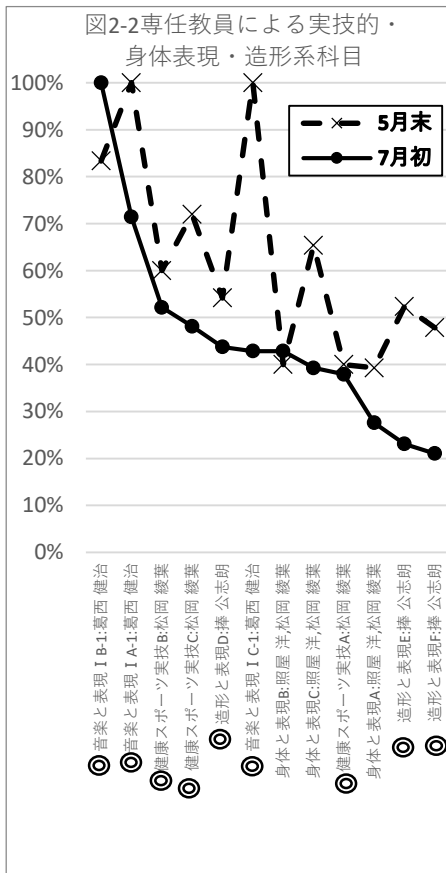
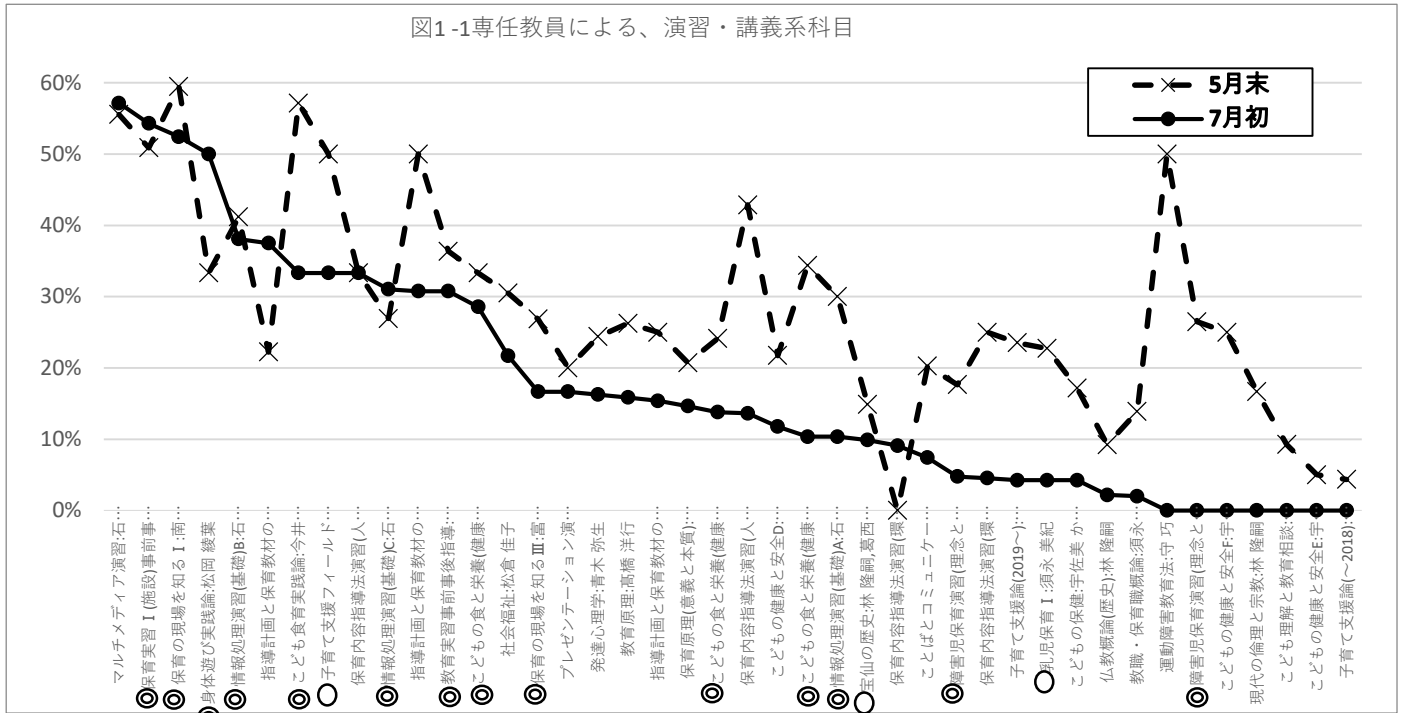


IR委員会報告

遠隔授業アンケート結果（5月・7月）からの考察

・「面接授業に切り替えてほしい」の回答率が高かった以下の科目(目安 20%以上)のうち、特に演習系科目を秋学期に
 対面授業とした。

対面授業に切り替えてほしいと思う者の割合の変化



グラフ注：科目の配列は7月初めのアンケート結果で多いものから少ないものへの順である。左から右への減少傾向については関数的に捉えるのではなく、グループとして捉えるほうが適切である。破線は5月末の結果であり、実線よりも上にある点は対面授業への切り替え希望者の割合が減少したことを意味する。また、プロットを線で繋いでいることも、「5月末」と「7月初」のデータを判別しやすくするために、本来は「5月末」と「7月初」の値をヒストグラムで表示するべきものである。◎は秋学期の後継科目を対面授業としたもの、○は秋学期の後継科目を遠隔授業としたものである。

なお、1年対象の「音楽実技 I」は20%を超えているが、2年生対象の「音楽と表現 II」は班により大きく異なる。

- ・専任教員による講義科目においては、5月と7月の「授業内容が遠隔授業ではわかりにくい」の回答率において、7月の方が下がっている傾向が確認できた。これは5月の遠隔授業開始から約2か月の間に、教員の遠隔授業における創意工夫が奏功したものと思われる。なお、◎は秋学期の後継科目を対面授業としたもの、○は秋学期の後継科目を遠隔授業としたものである。

授業内容が遠隔授業ではわかりにくいと思う者の割合の変化

